

## 集落復興活動における人的支援の可能性に関する研究

-新潟県中越地震からの集落復興における地域復興支援活動を事例に-

正会員 ○ 杉崎 康太\*  
同 田口 太郎\*\*地域復興支援員 集落復興 人的支援  
中山間地域 震災復興

## 1. はじめに

## 1-1. 研究の背景

中山間地域において、人口減少や高齢化により、相互扶助機能の低下や、空き家の増加などの問題が生じ、今後はさらなる高齢化の進展により問題が深刻化すると考えられる。こうした背景の中で、総務省が「集落支援員」の設置を支援する取り組みを開始している。この集落支援員に先立ち、新潟県中越地域では、平成16年に起きた新潟県中越地震の被災地域に地域復興支援センター<sup>※1</sup>を設置し、地域復興支援員<sup>※2</sup>（以下支援員とする）を配置し、中山間地域の集落復興に向けた人的支援を行う復興基金事業「地域復興支援員設置支援」を実施している。こうした動きは集落支援における人的支援を行政などが支援する先進的な取り組みといえ、これらの取り組み成果をとりまとめることは今後の集落における人的支援の可能性を検討する上できわめて重要であると言える。

また、中越地域では設置された支援員から集落活動への働きかけにより、住民が主体となった新たな活動が生まれている現状がある。

そこで本稿では、中越地震被災地での支援員による活動が地域にもたらした成果の分析を通じて、中山間地域の集落における人的支援の可能性を探ることを目的とする。

## 1-3. 研究の方法

筆者は平成20年4月より新潟県長岡市栃尾地域（旧栃尾市域）において支援員として集落復興に携わってきた。本稿では支援員の立場から、集落での復興に関わる活動への参与観察を通じて、地域復興支援センターおよび支援員による集落への働きかけとその結果生まれた活動などをレビューし、支援センターおよび支援員が果たした役割を明らかにする。

## 2. 研究対象概要

平成19年10月、新潟県中越地震からの被災地域である新潟県川口町に地域復興支援センターが設置され、併せて1名の地域復興支援員が設置された。その後、平成20年4月から被災地各地に本格的に地域復興支援センターおよび支援員が設置され、長岡市栃尾地区においても平成20年4月に長岡地域復興支援センター栃尾サテライト<sup>注3)</sup>（以下支援センターとする）が設置され、支援員が配置された。本研究ではこの支援センターおよび支援センターに配置された支援員の活動を対象に研究を進める。

## 2-1. 支援センターの概要

支援センターは、長岡市役所栃尾支所内に設置され、行

政との連携を取りながら、活動を進めている。支援センターは地域復興支援員が2名および臨時職員1名<sup>※\*</sup>の計3人で構成され、経費等はすべて復興基金により賄われている。

## 2-2. 支援センター取り組み

平成20年4月に支援センターが設置されて以降、計8集落において、集落と支援センターの連携による活動が進められている。これらの活動は集落づくり、元気づくり、情報発信に整理することができる。（表1）

集落づくり活動では、集落の復興に関わる計画策定支援、元気づくり活動では、各種集落行事の復活や企画などの実施支援、情報発信活動では、主に支援センターの活動の発信を行った。

本稿では、支援センターが取り組んでいる元気づくり活動の中で、支援員の働きかけにより新たな活動が生まれている一つの集落として西野俣集落を取り上げる。

## 2-3. 西野俣集落の概要

栃尾地域の西谷地区に位置し、構成世帯は23世帯で65歳以上の高齢者が6割を超える。平成20年4月から、支援員が集落に関わり、住民との話し合いを進める中で、元気づくり活動を進めてきた。

## 3. 西野俣集落の活動と支援センターの役割（図1）

## 3-1. 西野俣地域における一連の活動

西野俣集落では、これまで既存の集落行事として石積み<sup>※\*</sup>や盆踊りなどに取り組んできたが、復興を期に賽の神<sup>※\*</sup>の復活も進め、これらの集落活動を中心に元気づくりに取り組んできている。

支援センターは、区長との話し合いや各行事における事前の協議、行事当日に向けた活動支援、行事当日に参加する中で、活動の活性化に向けた提案や活動支援を進め、これをきっかけに集落で新たな活動や成果物が生まれてきている。

表1 支援センターの活動

集落づくり	「地域復興デザイン策定支援」事業の復興基金を活用した集落づくり支援、会議等への参加を通して住民の意見集約等 [対象集落：新山、栗原、中、西中野俣]	地域資源発掘ワークショップの開催、視察研修のコーディネート、会議への参加、意見交換会の開催、集落史編集委員会への参加
元気づくり	集落の年中行事への参加や、イベントの開催を通して集落の活性化促進を行う [対象集落：西野俣、藤上、栗山沢、半蔵金]	お茶会（※1）への参加、お祭りへの参加、遠賀への参加、集落行事への参加共催、地域間交流、住民ヒアリングの実施、各種イベントの開催、集落行事の復活、まちあるきワークショップ、寄り合いの場づくり等
情報発信	各集落で行われている復興活動の情報発信 支援センターの活動情報の発信	ブログの立ち上げ、新聞の発行、（計5回）、あいぽち（※2）での情報発信、栃尾地域内の交流会（※3）の開催、活動報告会の開催

※1 お年寄りが参加する寄り合いの場 ※2 中心市街地の空き店舗を活用した地域づくり拠点  
※3 地域づくりを目的とした各種団体や集落を一同に集めての交流会

### 3-2 支援センターの働きかけと新たな活動

集落行事の協議では、年中行事の活性化にむけ、昔の写真などから集落の昔の様子を知り、住民の気持ちの盛り上げを醸成することを目的に、支援センターから「昔の写真集め&ヒアリング」の提案を行い、支援員が集落各戸を回することで、集落との信頼関係の構築や写真の収集、集落のかつての暮らしのヒアリングを行った。これらの活動の結果、かつての集落の样子の再認識につながり、さらには集落のカレンダーを制作することで、多くの住民によるかつての集落の样子の共有活動へとつながった。

石積み行事では、行事自体は継続的に実施されてきたが、その背景にある歴史性の認識については集落住民の間で共有されていなかった。そこで、支援センターの提案により、行事の背景を知るための学習の機会として講話会が開催された。さらに行事の歴史背景の認識にとどまらず、石積み交流会が実施することで住民同士の交流深めるきっかけともなった。

盆踊りは、雨天のため中止となったが、支援センターの提案により、新たな交流の場づくりとして秋穫祭を実施した。ここでは、石積み行事の準備の際に収集した昔の写真的スライド上映会を行い、昔の集落の様子を住民同士で共有する機会が創出された。

賽の神の復活に向けては、事前準備の段階で地域外の学生との交流として茅刈り交流会を提案、実施した。この交流行事を通じて、集落行事の意義を住民で共有することが出来た。

これらの活動を経て、集落のかつての姿に対する住民の意識が高まり、カレンダー制作のほかにも写真展の開催など、集落の資源を活用したイベントが開催された。

#### 4. 支援センターの役割と課題

以上のことから、集落活動に支援センターが地域外の視点を持って企画や活動に関わることで、活動の歴史的背景

の再認識や地域資源の再認識へとつながり、これが地域住民の地域に対する誇りの獲得へとつながったと言えることから、支援センターは地域復興において、重要な役割を果たしてきたと言える。

一方で支援センターの今後の課題としては、支援活動自体の評価方法が明確にされていない上に、活動自体も支援員の裁量による部分が大きく、活動の一般化が難しい点が挙げられる。また、支援センターや支援員は中越地域においては、中越地震からの復興を目的とした復興基金により人権費等が拠出されていることから、基金の事業年度に依存した活動となっており、基金事業年度終了後の持続的な運営のための経済的な裏付けを検討する必要がある。

本稿では、中越地域における復興基金により設置されている支援センターおよび支援人による活動の成果と課題を示したが、この取り組みは総務省が設置支援をする「集落支援員」とも密接な関連性があるといえ、今後の継続的な活動レビューが必要である。

#### 補注

注1) 中越地震で被災した、長岡市、小千谷市、魚沼市、南魚沼市、川口町に地域復興支援センターが設置されている。

注2) 被災地域のコミュニティ機能の維持、再生や地域復興支援を行うことを目的に設置された。

注3) 長岡市の旧栃尾市、旧山古志村、旧小国町の市域に長岡地域復興支援センターのサテライトが設置されている。(平成20年4月時点)

注4) 地元出身の出身30代男性と地域外の20代男性(筆者)臨時職員は、地元の30代主婦。支援員のサポートを行っている。

注5) 地域の民俗行事。幼没した子供の霊の成仏を願って、子供の霊に代わって河原の石を積み行事。

注6) 賽の神：正月飾りを炊きあげ無病息災を祈る伝統行事。

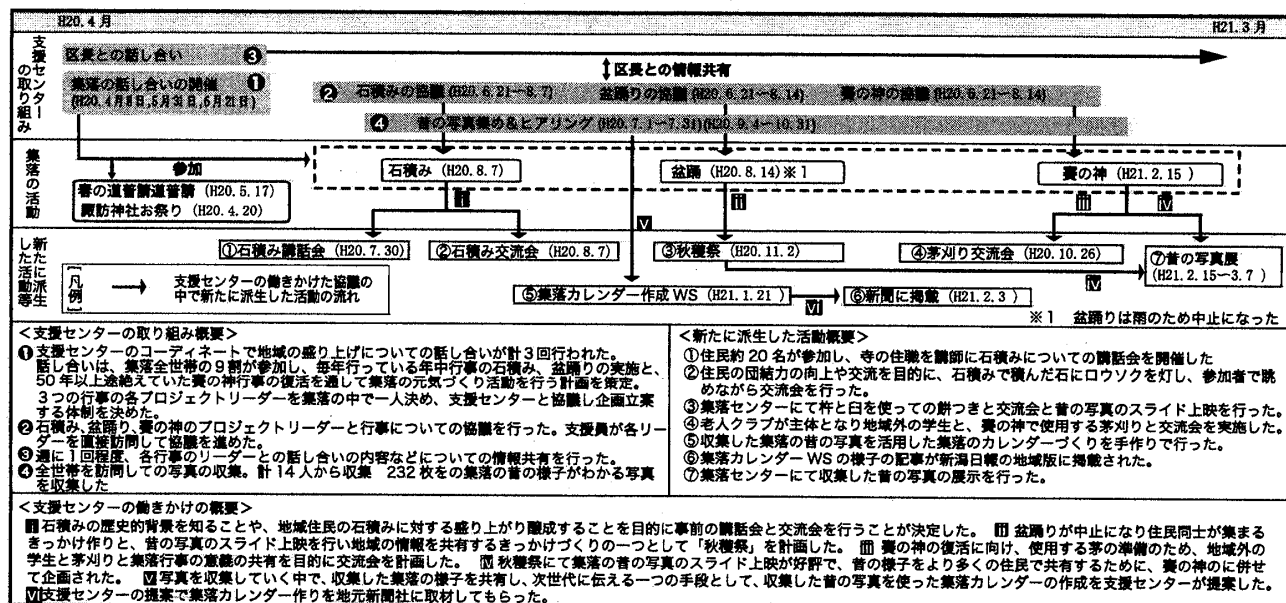


図1. 西野俣集落における支援センターの取り組み

\* (財)山の暮らし再生機構 地域復興支援員 修士(建築学) \* Revitalization Support Manager, Foundation of Renaissance for Life in Motherland, M.A  
 \*\* 新潟工科大学工学部建築学科准教授・博士(工学) \*\* Assoc.Prof., Department of Architecture and Building Engineering, Niigata Institute of Technology, Ph.D